

インド準備銀行、政策金利を引き下げ5.25%に 6月以来、2会合ぶりの利下げ

インド準備銀行（RBI、中央銀行）は12月5日、政策金利を0.25%引き下げて5.25%とすることを決定しました。RBIの動向、市場の反応および今後の見通しについて解説いたします。

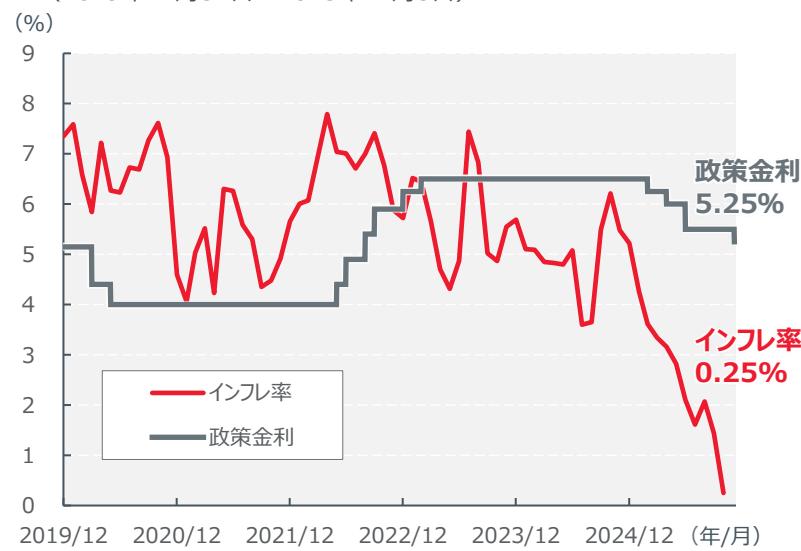
▶ 市場予想通り、政策金利を0.25%引き下げ

金融政策の概要：

- RBIは12月5日に終了した金融政策決定会合で政策金利（レポ金利）を0.25%引き下げ、5.25%としました。今回の決定は市場予想通りであり、金融政策委員会（MPC）は全会一致で決定しました。今年2月以降、RBIは累計で125bps（1.25%）の利下げを実施しており、今回で4回目となります。8月と10月の会合では据え置きだったため、6月以来、2会合ぶりの利下げとなります。
- 背景には、インフレ率の歴史的な低水準があります。10月の消費者物価指数（CPI）上昇率は前年同月比+0.25%と過去最低を記録し、RBIのインフレ目標（4%±2%）を大きく下回りました。こうした物価の動向を受け、景気刺激の余地があると判断されました。一方で、米国による追加関税や世界経済の減速など外部リスクが残っているため、RBIは「中立スタンス」を維持し、今後の物価動向を注視する姿勢を示しています。

【政策金利*とインフレ率**の推移】

(2019年12月31日～2025年12月5日)



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメント作成。

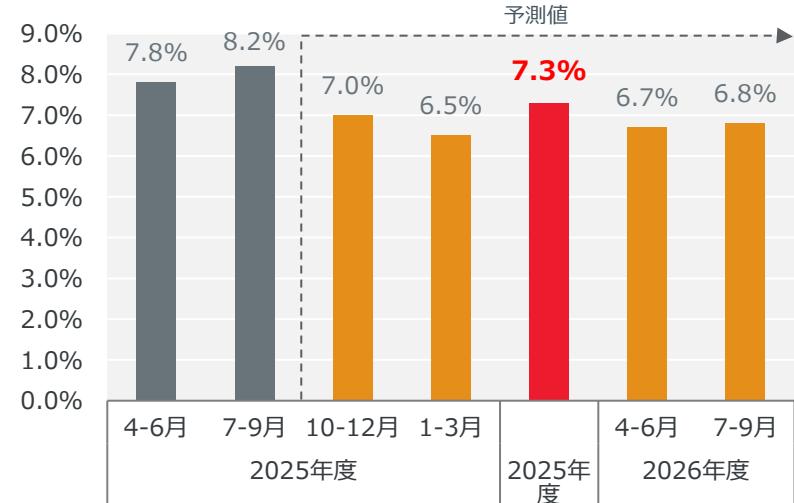
*レポ金利、**消費者物価指数（CPI）上昇率（前年同月比）、同項目のみ月次。新基準（2012年=100）による統計を使用。2025年11月まで。

経済成長見通し：

- 2025年7-9月期の実質GDP成長率は前年同期比+8.2%と、6四半期ぶりの高成長を記録しました。祝祭シーズンの好調な消費や政府支出の前倒し、GST（物品・サービス税）の減税、原油価格の低下が内需を押し上げました。製造業とサービス業の拡大、企業と金融機関の健全なバランスシート、良好な金融環境も経済活動を支えています。
- 一方で、物品輸出は外需の低迷により減少し、サービス輸出も軟化しました。米国の関税政策や世界経済の減速など外部環境の不確実性は残っており、成長の下振れリスクとして警戒されています。こうした状況を踏まえ、RBIは2025年度（2025年4月～2026年3月）の実質GDP成長率見通しを+7.3%に上方修正しました（前回予測は6.8%）。

【実質GDP（国内総生産）成長率見通し】

(2025年4-6月～2026年7-9月、四半期、2025年度通期)



出所：RBIのデータに基づきイーストスプリング・インベストメント作成。

2025年10-12月以降および2026年度は予測値。

○この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメント株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

イーストスプリング・インベストメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商） 第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

251208(04)

(1/2)

インフレ見通し：

- RBIは2025年度のインフレ率見通しを+2.0%に下方修正しました（前回予測は+2.6%）。食料品やエネルギー価格の安定、供給面の改善、需要圧力の限定的な状況が背景にあります。10月のインフレ率は前年同月比+0.25%と過去最低を記録し、インフレ目標を大きく下回っています。こうした物価の落ち着きによって、金融政策の緩和余地は広がっていますが、RBIは外部リスクや為替動向を注視し、物価安定を維持する姿勢を強調しています。

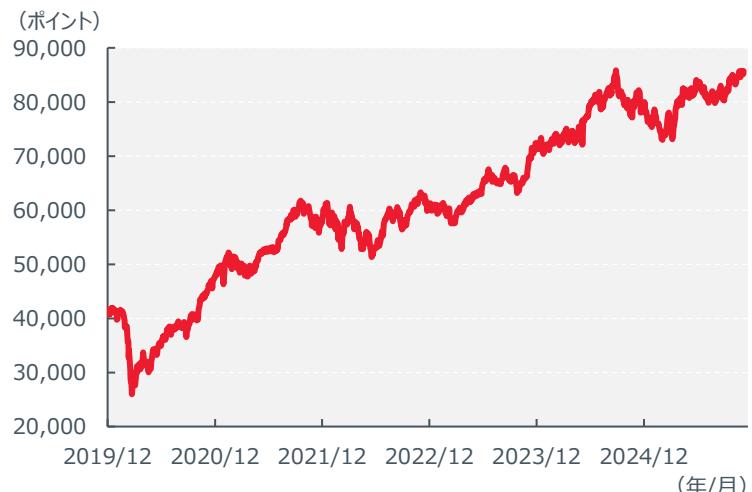
▶ 市場の反応と今後の見通し

- RBIによる政策金利の利下げは市場の予想通りであり、金融市場の反応は限定的でした。12月5日、代表的な株価指数であるSENSEX指数は前日比+0.52%、インドルピーは対米ドルで-0.01%となりました。10年国債利回りは前日比-2bps (-0.02%) の6.49%となりました。
- RBIは2025年度の実質GDP成長率見通しを7.3%に上方修正する一方、インフレ率見通しは+2.0%に下方修正しました。当社では、今回の利下げは、緩和サイクルの最後となる可能性が高いと考えています。今後、実質GDP成長率が大きく失望する出来事がない限り、利下げの可能性は極めて低いと見ています。

※次回の金融政策決定会合は2026年2月4日から6日に開催予定。

【SENSEX指数の推移】

(2019年12月31日～2025年12月5日、日次)



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメント作成。
※プライス・リターン、インドルピーベース。

＜当資料に関してご留意いただきたい事項＞

○当資料は、イーストスプリング・インベストメント株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧説・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがあります。将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。